

中央大学大学院経済学研究科 News

10/8 に博士論文最終報告 公開研究会が行われました！

～よりよい博士論文作成のために～

「今年度の経済学研究科博士論文 提出予定者公開研究会を振り返って」

経済学研究科委員長 藪田雅弘

昨年より始まった経済学研究科の公開研究会。今年、10月8日(土曜日)に開催されました。これは、博士学位候補者(キャンディデート)の試験に合格した候補者が、指導教授、副指導教授の指導のもとで、博士論文をほぼ完成させ、最終試験をめざす直前のほぼ完成された博士論文の内容を報告する研究会です。公開ということもあり、当日は、先生方はもとより、在学生、既卒生をはじめ多くの参加を得て活発な討論が行われました(下の写真)。今回は4名のキャンディデートが報告をいたしました。各自の報告30分ののち、予定討論者の先生からのコメント15分、フロアーからの質疑、応答15分といった時間の流れで、活発な議論が行われました。司会の役割は、大学院教務委員の松本先生、阿部先生にお願いし、先生方からは、時間配分のほかに、論点の交通整理も行っていただきました。



公開研究会の意義は、こうした研究報告の場を通して、キャンディデートの緊張あるメリハリのきいた学究生活、執筆計画遂行に資することができ、直前で、残る課題を発見し、その上で論文を推敲し、加筆修正すべき点を明確にすることにあります。また、在学生全体にとっても博士論文の水準と含むべき内容を明示し確認してもらおうことで、よりよい博士論文作成に寄与することを目的にしています。各キャンディデートは、公開研究会を終えたのち、2から3か月間で、博士論文を加筆修正し、最終試験に臨むことになります。

もとより、博士論文の審査の基準は、新規性、整合性、体系性の観点から行われます。各報告論文に対して、とくに予定討論者の先生方から、論文の体系や整合性に対する修正提案や文章や参考文献に関する修正点の指摘が行われ、こうした点が、これから博士学位の取得を目指す在学生諸氏にとって「明日は我が身」以上の自覚ができたとする、公開研究会の目的は達成できたのではないかと思います。いつでも、キャンディデートの皆さんのさらなる飛躍を経済学研究科の教職員一同、祈念しております。

(博士論文提出予定者公開研究会の様子)